

「総合的な利用メニューの充実」に関する実施結果

目次

1. 自然体験プログラムの開催 .....	2
1-1. 自然体験プログラムの概要 .....	2
1-2. アクティブ・レンジャーによる自然観察会 .....	3
1-3. パークボランティアによる自然観察会 .....	7
1-4. 自然体験プログラムの実施 .....	11
2. 普及啓発活動の実施 .....	13
2-1. 大台ヶ原自然再生ホームページの充実 .....	13
2-2. 大台ヶ原通信（メールマガジン）の発行 .....	16
2-3. ホームページ等に関する取組み課題 .....	16

# 1. 自然体験プログラムの開催

## 1-1. 自然体験プログラムの概要

平成19年度に実施した自然観察プログラムの概要は、下表の通りである。平成19年度は、アクティブ・レンジャーによる自然観察会を12日間・計27回（参加者数：計95人）、パークボランティアによる自然観察会を4日間・4回（参加者数：計38人）開催した。また、8月28日には、上北山村内の小中学校生徒およびその家族を対象とした自然観察会を実施した（参加者数：10人）。また、10月27日には、講師を招いて、大台ヶ原の自然再生等をテーマとした自然体験プログラムを実施した（参加者数：2人）。

表1 平成19年度自然体験プログラム一覧

開催日	時間	行事名	コース	広報	参加対象	定員	参加者数	主催者
6/10	10:00～16:00	PV観察会	日出ヶ岳～正木ヶ原～大蛇岩など	HP、報道機関への情報提供、VC、当日募集	一般	20	5	環境省
6/23	9:00～10:00 11:00～12:00 13:30～14:30	AR観察会	苔道	HP、報道機関への情報提供、道の駅、VC、当日募集	一般	30	13	環境省
6/30	9:00～10:00 11:00～12:00 13:30～14:30	AR観察会	苔道	HP、報道機関への情報提供、道の駅、VC、当日募集	一般	30	15	環境省
7/7	9:00～10:00 11:00～12:00 13:30～14:30	AR観察会	苔道	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	30	3	環境省
7/22	10:00～16:00	PV観察会	日出ヶ岳～正木ヶ原～大蛇岩など	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	20	14	環境省
8/8	9:00～10:00 11:00～12:00 13:30～14:30	AR観察会	苔道	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	30	13	環境省
8/15	9:00～10:00 11:00～12:00 13:30～14:30	AR観察会	苔道	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	30	11	環境省
8/22	9:00～10:00 11:00～12:00 13:30～14:30	AR観察会	苔道	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	30	10	環境省
8/28	8:40～15:00	ふるさと自然「大台ヶ原」自然観察会	東大台地区、西大台地区に近毎に分かれて自然観察	上北山村教育委員会	上北山村内小中学児童・生徒及びその家族	30	10	環境省・上北山村教育委員会
9/8	9:00～10:00 11:00～12:00 13:30～14:30	AR観察会	苔道	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	30	11	環境省
9/9	10:00～16:00	PV観察会	日出ヶ岳～正木ヶ原～大蛇岩など	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	20	8	環境省
9/15	9:00～10:00 11:00～12:00 13:30～14:30	AR観察会	苔道	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	30	2	環境省
9/22	9:00～10:00 11:00～12:00 13:30～14:30	AR観察会	苔道	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	30	8	環境省
10/10	9:00～10:00 11:00～12:00 13:30～14:30	AR観察会	苔道	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	30	2	環境省
10/17	9:00～10:00 11:00～12:00 13:30～14:30	AR観察会	苔道	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	30	2	環境省
10/21	10:00～16:00	PV観察会	日出ヶ岳～正木ヶ原～大蛇岩など	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	20	11	環境省
10/24	9:00～10:00 11:00～12:00 13:30～14:30	AR観察会	苔道	HP、報道機関への情報提供、地元広報紙、道の駅、VC、当日募集	一般	30	5	環境省
10/27	10:30～13:30	自然体験プログラム	VC～日出ヶ岳展望デッキ	HP、VC、当日募集	一般	20	2	環境省
					合計	490	145	

※AR観察会：アクティブ・レンジャーによる自然観察会

PV観察会：パークボランティアによる自然観察会

## 1-2. アクティブ・レンジャーによる自然観察会

### (1) 概要

#### 1) 目的

五感を使って季節ごとの大台ヶ原の自然を感じ、自然とふれあうきっかけ作りの場とすること。また、トウヒやコケの衰退、ミヤコザサの繁茂などの変わりつつある大台ヶ原の自然の現状について解説し、それらを通じて広く自然環境の保全とその利用のあり方について認識してもらうこと。

#### 2) 主催

近畿地方環境事務所

#### 3) 講師

吉野自然保護官事務所 アクティブ・レンジャー

#### 4) 開催日

6月23日(土)、30日(土)

7月7日(土)

8月8日(水)、15日(水)、22日(水)

9月8日(土)、15日(土)、22日(土)

10月10日(水)、17日(水)、24日(水)

#### 5) 開催時間および開催場所

時間：9:00～10:00、11:00～12:00、13:30～14:30 の3回(ただし、参加者が集まらない場合は中止とした)

場所：苔道

#### 6) 対象

一般(小学生以下の参加は保護者同伴とする)

#### 7) 定員

各回10名、計30名

#### 8) 参加費

100円(保険代)

#### 9) 広報

ホームページによる広報、報道機関への情報提供、道の駅における広報、ビジターセンターにおける広報、および当日募集

#### 10) その他

以下の内容について、参加者に説明を行った。

①体調、持ち物等の確認

②公園内規制内容の説明

③各班に分かれる場合は、各班の引率者の明確化

④緊急事態の発生の際に、引率者へ情報を伝えるよう参加者に説明

(2) 参加者アンケートの結果

1) 回収数および回収率

アクティブ・レンジャーによる自然観察会の参加者 95 名に対して、自然観察会終了後アンケート票を配付し、70 人の回答を得た。回収率は 73.7%であった。

AR 観察会参加者数	95 人
回収数	70 人
回収率	73.7%

2) 参加者の属性

(ア) 性別、年齢

参加者の性別は、男性が 51.4%、女性が 48.6%で、ほぼ同数であった。また、年齢は、50 代が最も多く 28.6%を占め、次に 30代が 17.1%、40代と 60代がそれぞれ 12.9%であった。

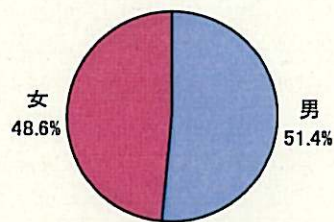


図 1 性別

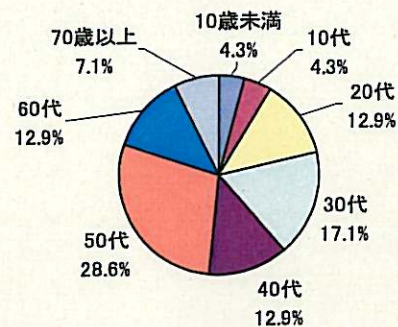


図 2 年齢

(イ) 居住地

参加者の居住地は、大阪府が最も多く、27.1%を占め、次に奈良県 22.9%、兵庫県 12.9%の順で多かった。

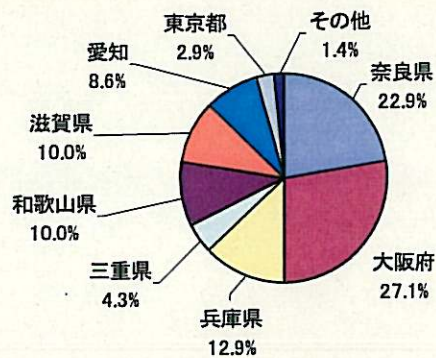


図 3 居住地

### 3) 交通手段

交通手段は、バイクが2人いた意外は、全て自家用車であった。

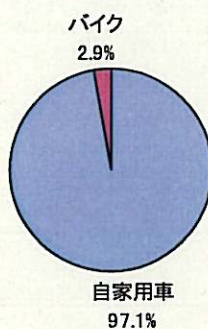


図4 交通手段

### 4) 大台ヶ原への来訪回数

大台ヶ原への来訪回数は、初めてが51.4%と最も多かったが、6回以上も18.6%と少なくなかった。

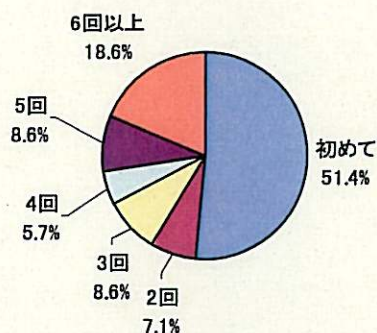


図5 大台ヶ原への来訪回数

### 5) 自然観察会を知ったきっかけ

アクティブ・レンジャーによる自然観察会を知ったきっかけは、「当日アナウンス」が最も多く74.3%を占め、次にビジターセンターが10.0%であった。

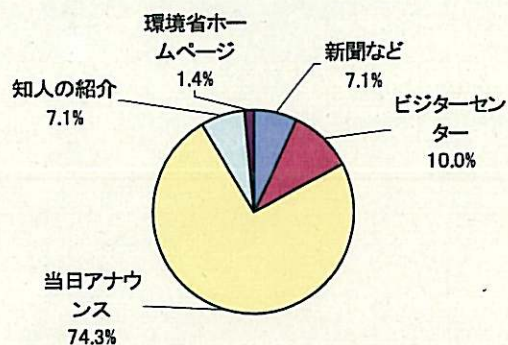


図6 自然観察会を知ったきっかけ

## 6) 自然体験の満足度

満足度については、「とても楽しい」が最も多く 60.0%を占め、次に、「楽しい」が 38.6%であった。「つまらない」が1人いたが、「とてもつまらない」とした参加者はいなかった。

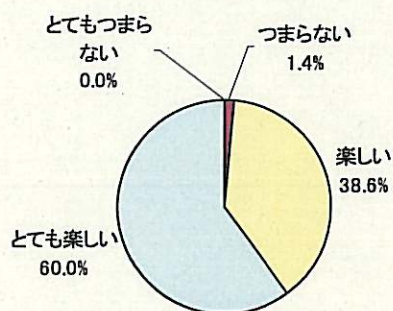


図7 自然体験の満足度

## 7) 説明に関する評価

説明の分かりやすさについては、「分りやすい」が最も多く、74.3%で、「やさしい」が 25.7%であった。「とても難しい」、「難しい」とした参加者はいなかった。

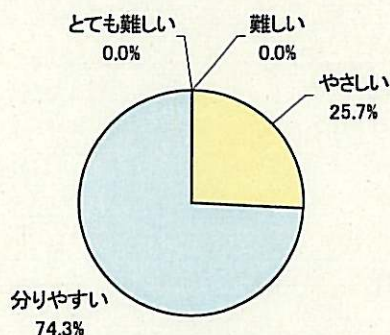


図8 説明に関する評価

## 8) 自由意見

### ■自然体験の感想等

- ・直接触って体験できたのがよかった。(2件)
- ・自然についてより深く学ぶことができて良かった。(6件)
- ・大台ヶ原の自然の変化について学ぶことができた。(4件)
- ・説明が丁寧で分かりやすかった。(6件)
- ・ネイチャーゲームや人形を使った説明など、工夫されていて楽しかった。(6件)

### ■要望等

- ・冬の自然体験もあるとよい。
- ・呼び込みをさらに工夫すれば、もっと多くの人に参加すると思う。
- ・木や虫の見分け方について、もう少し詳しく説明してもらえるとありがたい。(2件)
- ・もう少し長いコースがあってもよいと思う。(3件)
- ・西大台コースなど、また別のプログラムもあるとよい。(3件)
- ・話し方などをもう少し工夫するとよいと思う。(2件)
- ・自然を守るための協力費として、駐車場を有料にしてはどうか。

### 1-3. パークボランティアによる自然観察会

#### (1) 概要

##### 1) 目的

吉野熊野国立公園大台ヶ原において、大台ヶ原地区パークボランティアが東大台地区の歩道を一般参加者と歩きながら、季節の植物を中心とした自然解説や五感を使った解説を行い、一般の参加者に大台ヶ原の自然により深く触れ、自然の大切さを理解してもらうこと。

##### 2) 主催

近畿地方環境事務所

##### 3) 講師

大台ヶ原地区パークボランティア（※現地責任者として吉野自然保護官事務所職員が同行）

##### 4) 開催日

- ①平成19年6月10日（日）、②平成19年7月22日（日）、③平成19年9月9日（日）
- ④平成19年10月21日（日）

##### 5) 開催時間及び開催場所

###### ①半日コース

開催時間：10：30～15：30（受付10：00～10：30 大台ヶ原ビジターセンター前）

開催場所：東大台周回線歩道沿い

大台ヶ原周回線歩道を、自然解説を交えながら周回する。たっぷりと時間をかけて東大台ヶ原の魅力を堪能したい方向けのプログラム。

###### ②ショートコース

開催時間：10：30～11：30（受付10：00～10：30 大台ヶ原ビジターセンター前）

13：30～14：30（受付13：00～13：30 大台ヶ原ビジターセンター前）

開催場所：苔探勝路周回歩道・上道（駐車場から日出ヶ岳）・中道（駐車場から尾鷲辻）

短時間で自然の楽しみを体験したい方向けのプログラム。

##### 6) 対象

一般（小学生以下の参加は保護者同伴とする）

##### 7) 定員

- ①半日コース20名（先着順）
- ②ショートコース各10名（先着順）

##### 8) 参加費

200円（地図代・保険代）

##### 9) 広報について

近畿地方環境事務所 HPによる広報

吉野自然保護官事務所 奈良県、京都府、大阪府庁記者クラブ

きんき環境館メールマガジン

ならリビング、奈良新聞（奈良新聞系列）

道の駅、大台荘 など観光施設

## 10) その他

以下の内容について、参加者に説明を行った。

- ①体調、持ち物等の確認
- ②公園内規制内容の説明
- ③各班に分かれる場合は、各班の引率者の明確化
- ④緊急事態の発生の際に、引率者へ情報を伝えるよう参加者に説明

## (2) 参加者アンケートの結果

### 1) 回収数および回収率

パークボランティアによる自然観察会の参加者 38 名に対して、アンケート票を配付し、25 人の回答を得た。回収率は 65.8%であった。

AR 観察会参加者数	38 人
回収数	25 人
回収率	65.8%

### 2) 参加者の属性

#### (ア) 性別、年齢

性別は、男性が 44.0%、女性が 56.0%であった。年齢は、30 代が最も多く 32.0%を占め、次いで、50 代、60 代がそれぞれ 20.0%であった。

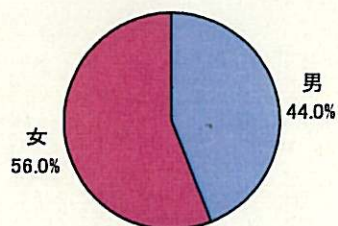


図 9 性別

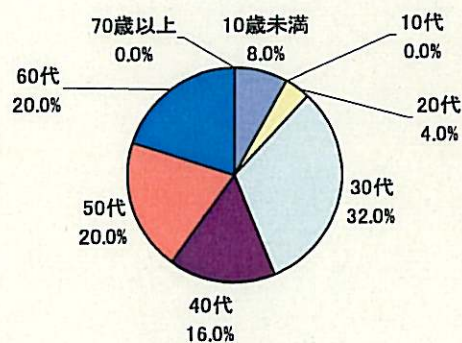


図 10 年齢

#### (イ) 居住地

参加者の居住地については、大阪府が最も多く、36.0%を占め、次いで、奈良県 32.0%、愛知県 20.0%の順となっている。

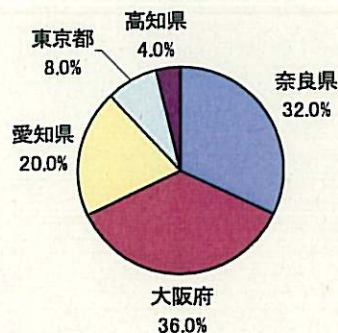


図 11 居住地



### 3) 交通手段

交通手段は、25名全員が自家用車であった。

### 4) 自然観察会を知ったきっかけ

パークボランティアによる自然観察会を知ったきっかけは、当日のアナウンスが最も多く、64.0%を占め、次いで、ビジターセンターが20.0%と多かった。

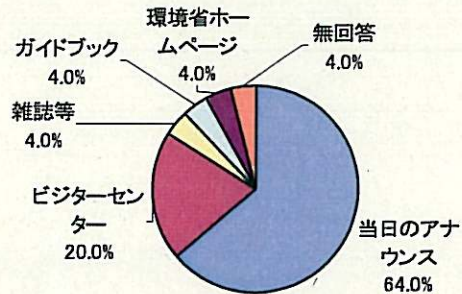


図12 自然観察会を知ったきっかけ

### 5) 自然体験の満足度

自然体験の満足度については、7点(大変良い)、6点、5点、4点(普通)、3点、2点、1点(大変悪い)の7段階で評価を求めた結果、7点が最も多く64.0%を占め、次いで、6点が20.0%と多かった。2点以下とした参加者はいなかった。

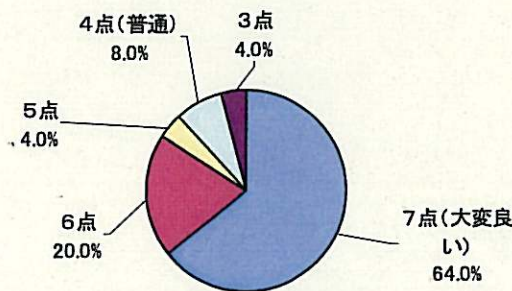


図13 自然体験の満足度

### 6) 説明に関する評価

説明の分かりやすさについては、7点(大変分かりやすい)、6点、5点、4点(普通)、3点、2点、1点(大変分かりにくい)の7段階で評価を求めた結果、7点が最も多く、76.0%を占め、次いで、6点が20.0%であった。

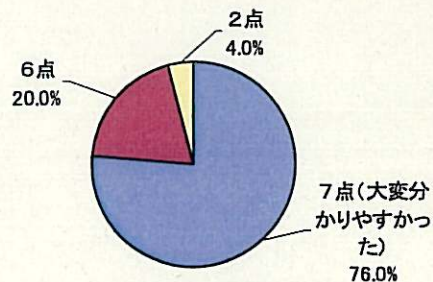


図14 説明に関する評価

## 7) 自由意見

- ・初めて来たので、このようなガイドがあつて、たいへん助かった。(3件)
- ・トイレが無いのが困った。
- ・自然の大切さを学ぶことができた。(5件)
- ・当日でも気軽に参加できたのがよかった。

#### 1-4. 自然体験プログラムの実施

##### (1) 概要

###### 1) 目的

来訪者に、大台ヶ原の雄大な森林について学び、体験する機会を提供することにより、大台ヶ原の魅力や、現在取り組んでいる自然再生の意義について、より深く知っていただくことを目的とする。

###### 2) 主催

近畿地方環境事務所

###### 3) 講師

高田研一氏 (NPO 法人森林再生支援センター常務理事/高田森林緑地研究所所長)

###### 4) 開催日

平成19年10月27日(土) ※雨天のため、時間を短縮して実施

###### 5) 開催時間及び開催場所

時間：10：30～13：30

場所：東大台地区(ビジターセンター～日出ヶ岳展望デッキ)

##### ●コース概要

大台ヶ原ビジターセンター→展望デッキ三叉路→大台ヶ原ビジターセンター

10：00	受付開始
10：30	大台ヶ原ビジターセンター前集合 ・参加者の確認、講師紹介等
10：40	出発
(80分)	(上道経由) ・講師のお話 内容：大台ヶ原の森の成り立ち、植生の特徴について 森林衰退の経緯①～トウヒの立ち枯れ・ミヤコザサの拡大について～ ・防鹿柵内の見学、講師のお話 内容：森林衰退の経緯②～シカの食害と防鹿柵の役割について
12：00	展望デッキ三叉路 ・講師のお話
(80分)	内容：大台ヶ原の自然再生にむけて
13：20	大台ヶ原ビジターセンター ・閉会の挨拶、参加者アンケートの記入
13：30	解散

###### 6) 対象

一般(小学生以下の参加は保護者同伴とする)

###### 7) 定員

20名

###### 8) 参加費

100円(保険代)

###### 9) 広報

- ・大台ヶ原自然再生HPおよびメールマガジン
- ・ビジターセンターでの当日アナウンス

## (2) 参加者アンケートの結果

本プログラム終了後、参加者に対して自由記述を中心とするアンケートを実施した。

### 1) 参加者の属性

今回のプログラムへの参加者は、60代男性（奈良県）、20代男性（大阪府）の2名であり、うち1名は大台ヶ原パークボランティアである。いずれも来訪手段は自家用車であった。環境省ホームページ、および大台ヶ原ビジターセンターでプログラムの情報を知り、参加を申し込んだ。

### 2) 自由記述

#### (ア) 本日のプログラムについての感想・意見

- ・ 高田先生に中身の濃い自然解説をしていただきました。これをきっかけに地形・地質、樹木と樹木の関係など勉強していきたいと思います（60代男性）。
- ・ 専門家との散策は非常にためになった。普段考えないような視点で物事をみることができ、今後に生かせる体験だった。是非今後も様々な専門の人を呼んで続けてほしい（20代男性）。

#### (イ) 今後のプログラムの周知方法について

- ・ 大台ヶ原ビジターセンター内の掲示、ホームページ等（60代男性）。
- ・ 新聞への折込チラシなどが、一般に広く知ってもらうには効果があるが、コストが高い。口コミが一番だと思うので、話題性のあるタイトルにするなどがよいと思う（20代男性）。

### (3) 成果と今後の課題

- ・ 悪天候のため参加者は少なかったが、大台ヶ原の自然再生に関心が深い層の参加であったため、防鹿柵内での講義も含めて、より専門的で内容の充実したプログラムとなった。
- ・ 今後は、やや関心の薄い層の興味をひきつけるようなプログラム内容の検討が必要である。また雨天の場合にも楽しめるプログラムを複数準備しておくことも検討すべきである。

## 2. 普及啓発活動の実施

大台ヶ原自然再生整備事業に対する国民の普及啓発を目的として、インターネットの大台ヶ原自然再生ホームページ（<http://www.odaigahara.net/>、以下大台ネット）などによる情報提供・情報発信を行った。

### 2-1. 大台ヶ原自然再生ホームページの充実

大台ヶ原再生ホームページでは、各種委員会情報や自然体験プログラムなどの各種イベント情報の随時更新に加え、ホームページ開設（2004年3月）より2年が経過し、当初掲載された各種データについても、最新情報との整合を確認し更新を行った。

#### (1) 特設コンテンツ『大台ヶ原へは公共交通で』（公共交通利用促進キャンペーン）の設置

公共交通利用促進のための広報ツールとして、各種交通情報提供およびマイカーの利用自粛、公共交通利用の促進を呼びかける特設コンテンツを期間限定で開設した。

公共交通利用促進キャンペーンとの連動によるドライブウェイ混雑状況の紹介および混雑予想日の掲載、駐車場満空リアルタイム情報等の公共交通利用に係わる各種情報を提供し、コンテンツの充実を図った。

また、昨年度実績において同コンテンツへのアクセス数の好調な伸び（平成18年10～11月の期間中約3,300アクセス）を示したことをふまえ、利用者の拡大に向けて本年度はPC用サイトに加え、モバイルサイト上においても同コンテンツを開設した。

コンテンツの開設時期は、秋の観光シーズン～大台ヶ原ドライブウェイの開通期間までを中心に、平成19年10月12日～11月31日までの期間限定とした（※駐車場満空リアルタイム情報は、9月29日～11月4日の土日祝日に配信）。

#### (2) 既設コンテンツの更新・充実

委員会情報や各種イベント情報、また奈良交通バスダイヤ改正情報などの随時更新に加え、ホームページ開設（2004年3月）より2年が経過し、当初掲載された各種データについても、最新情報との整合を確認し更新を行った。

#### (3) ホームページのアクセス状況

##### 1) PC用サイトのアクセス状況

平成17年8月～平成19年12月の29ヶ月間におけるPC用サイトの総訪問者数<sup>※</sup>は79,824人、また総訪問数<sup>※</sup>は104,338回、閲覧ページ総数450,070ページであった。平成19年の推移を月別にみると、訪問者数、訪問数、閲覧ページ数ともに10月が最も高い値となっており、ついで8月、5月と観光シーズンに合わせてアクセスが多くなっていることが分かる。

また、平成18年と平成19年を比較すると、平成19年の総訪問者数(39,322人)は前年(32,560

<sup>※</sup>訪問者数と訪問数

訪問者数はサイトを訪れたユーザーをIPアドレス等によって判別し、再度サイトを訪れた際には同じユーザーとしてカウントした値。訪問数はサイトを訪れたユーザーの延べ人数。例えば、1人のユーザーが同サイトに2回/日のアクセスを行った場合、訪問者数=1、訪問数=2となる

人)との比で121%増加しており、ホームページによる大台ヶ原情報の収集行動が着実に浸透しつつあるといえる。

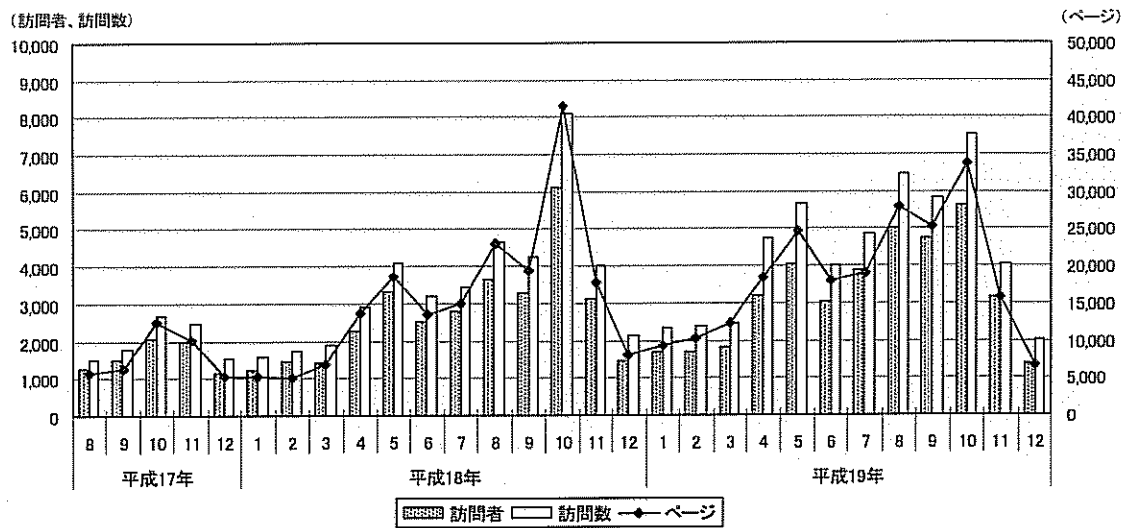


図 15 月別訪問者数、訪問数、閲覧ページ数

## 2) モバイルサイトのアクセス状況

平成17年8月～平成19年12月の29ヶ月間におけるモバイルサイトの総訪問者数<sup>※</sup>は1,879人、また総訪問数<sup>※</sup>は5,402回、閲覧ページ総数7,893ページであった。平成19年は、春にもリアルタイム情報の提供を行っていることから、10、11月だけでなく、4、5月にもアクセス数の増加がみられた。

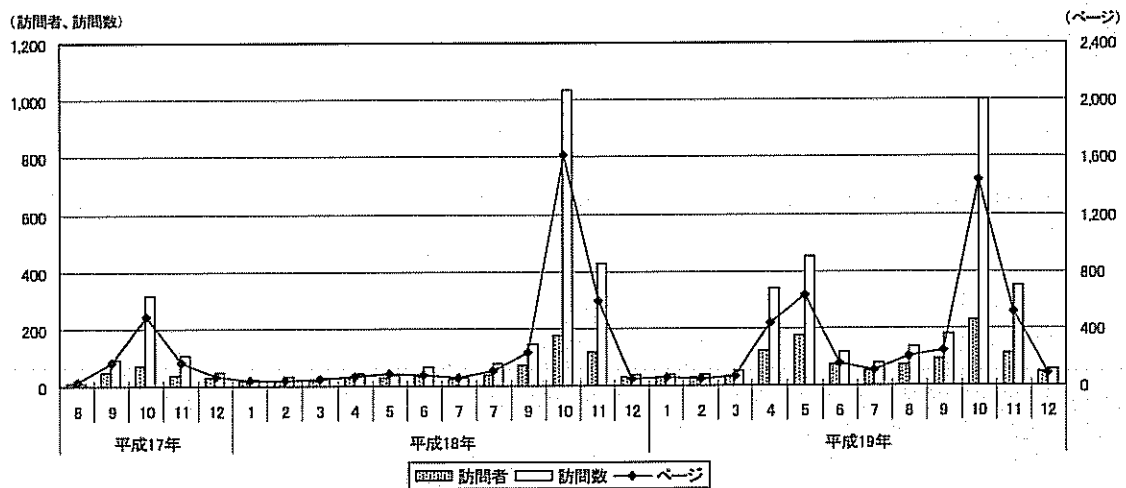


図 16 月別訪問者数、訪問数、閲覧ページ数 (モバイルサイト)

コンテンツカテゴリ別のアクセス数をみると、山上駐車場満車・空車情報のリアルタイム配信を行った「トップページ」および「大台ヶ原へのアクセス」の4～5月、10～11月のアクセス数が突出している。大台ヶ原への来訪の途中で行き方を調べる、また駐車場の状況を調べるといった、特定の行動に限定した当サイトの利用がなされていると考えられる。

また、本年度より期間限定で新設した「公共交通キャンペーン」にも多くのアクセスがあり、公共交通の利用促進において、一定の役割を果たしたといえる。

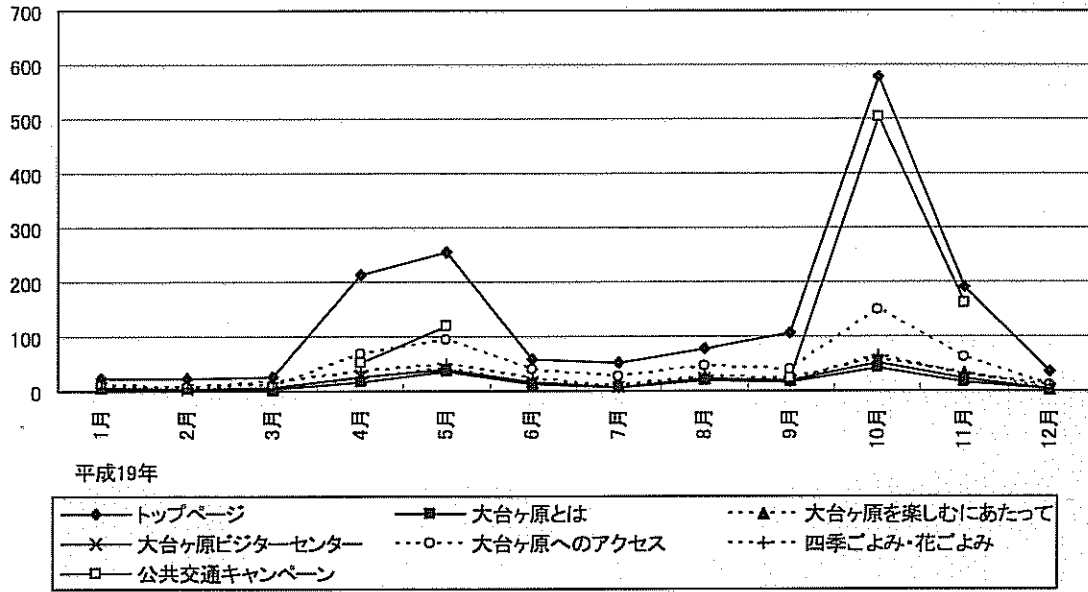


図 17 月別カテゴリ別アクセス数 (モバイルサイト) (ページ)

## 2-2. 大台ヶ原通信（メールマガジン）の発行

大台ヶ原の自然や自然再生の取組みに関する理解を深めると同時に、大台ヶ原に対する親しみや愛着を醸成し、より質の高い利用を促進するための周知活動として、大台ヶ原メールマガジンの配信を実施した。

### (1) 登録者数

メールマガジンの登録者数は平成20年1月現在で341と、創刊号配信時（平成17年9月）の登録者数25、また平成19年1月時点での登録者数219と比較して順調な伸びを示している。

### (2) 配信状況

本年度のメールマガジンは、平成19年9月3日（第6号）、平成19年10月12日（第7号）及び平成19年11月21日（第8号）に、それぞれ配信した。内容としては、イベント情報、自然再生への取組み状況、混雑期における公共交通利用・混雑日回避の呼びかけの他、閑散期における利用の呼びかけを掲載した。

また、季刊で対応できないイベント情報として、山上駐車場情報のリアルタイム配信について平成19年4月臨時号及び9月臨時号として配信を行った。

各号の配信数は、時系列でみると4月臨時号242、第6号306部、9月臨時号311部、第7号324部、第8号341部と順調な増加となっている。

## 2-3. ホームページ等に関する取組み課題

### (1) PC用サイトの利用者拡大・維持

#### 1) 人気コンテンツの内容充実

ホームページのアクセス数は順調に増加しており、今後は人気コンテンツを核とした内容充実を図ることにより、利用者の大台ヶ原への理解を深めることが、他コンテンツへの誘導を促し、普及啓発の推進につながると考えられる。

#### 2) 情報の集約、発信力の強化

観光シーズンに特にアクセスが集中するなど、利用者は来訪のための事前情報収集の手段としてホームページを利用する傾向が見られる。利用者の維持（リピーター確保）のためには、利用者の要求に応じた適正な情報配信が必要であり、情報の「即時性」「内容の分かり易さ」「アクセスの容易さ」について当サイトの構成、提供情報の内容を含めた再検討が必要である。

また、情報の即時性確保のため、情報の提供元となる各関係機関との適正な連携体制の構築が求められるとともに、山上における情報通信インフラの整備・拡充について検討していく必要がある。

### (2) モバイルサイトの利用者拡大に向けた取組み

#### 1) サイト利用目的に合わせたコンテンツの充実

モバイルサイトは現状、来訪のためのアクセス情報の取得といった特定の利用にのみ集中している。モバイルサイトは、大台への来訪道中にサイトにアクセスする場合がほとんどであり、サイト利用者拡大に向けては、「大台ヶ原へのアクセス方法」や「駐車場情報」だけでなく、「開



花情報」「天候（日の出）情報」など、利用目的にあわせたコンテンツの充実が求められる。

## 2) サイトと連携した現地イベント等の実施

モバイルサイトの積極的活用方法として、例えば、モバイルサイトでダウンロードした画像を現地係員に提示することにより、各種サービス（参加証として、割引・優待等）を受けられるなど、現地イベントとの新たな連携方策が考えられる。現地イベント活性化のためのツールとして、モバイルサイトの活用は有効である。

## (3) メールマガジン定期配信の維持・拡充

創刊号の配信以降、登録者は順調に増えており、定期的な配信を継続することが登録の拡大につながると考えられる。登録者の拡大・維持を図るため、今後もメールマガジンの定期配信を継続することが求められる。

### 1) 独自情報の収集・提供

イベント情報等の先行的配信や、現地スタッフによる大台ヶ原の魅力紹介記事など、独自情報提供の展開によるメールマガジン情報価値を高めることが、メールマガジン登録者の拡大・維持に必要である。

### 2) 関係機関の連携強化

上記、定期配信の維持、独自情報の収集・提供に向けては、国、県、村をはじめ現地スタッフやボランティアといった、情報提供・配信のための各関係機関の連携強化のもと、体制づくりが求められる。